

のびのび学習塾

～ もくじ ～

個々に応じた学習支援を 物質生命科学科 科目等履修生 東海林 雄斗
ボランティアと支援 自治行政学科 4年 黒川 昂
子どもに一番必要な支援 英語英文学科 4年 影山 千恵
生徒の意欲に沿いながら進める 英語英文学科 4年 滝沢 栞菜
日本語を教えることの難しさ 人間科学科 4年 佐野 史織
中学生から学んだこと 電気電子情報工学科 4年 木川 駿
初年度ののびのび学習塾での活動 電気電子情報工学科 4年 御子柴 裕一
継続していきたいこと 電気電子情報学科 4年 佐藤 未菜
「言葉の壁」を越えたその先で 経済学科 3年 山梨 優
成功体験と失敗体験による生徒の学びへの態度 法律学科 3年 遠藤 駿
生徒との信頼関係を創るために 英語英文学科 3年 荒井 千鶴加
半年を振り返って 経済学科 2年 富澤 悠太

個々に応じた学習支援を

物質生命科学科 科目等履修生 東海林 雄斗

のびのび学習塾で活動を始めて一年になり、主に数学を担当しています。生徒はそれぞれ自分なりの目標を持ってこの学習塾にきています。それは、学校の学習だけではなく、人とのコミュニケーションや言語の習得など様々な苦手を克服しにきているのです。どの生徒たちも強い学習意欲を持ち、活動中はとても楽しそうに笑ったり、分からなかったら困った顔をしたり、感情豊かに活動しています。その要因として、学校とは違う学習環境だということもありますが、活動支援に取り組んでいる学生がこの環境を作り出し、生徒との信頼関係を築いているからだとは感じています。私は生徒とのふれあいや学習活動を通じて、その環境を作り出している一員になれていることを最近実感することができました。ですが、私自身の課題として、生徒にわかりやすい学習支援ができていないことを痛感しています。その課題のひとつとして、理解力に差がある生徒に対してどのような支援をするのがよいのかを考えています。担当している二人の生徒、DさんとYさんについて、感じたことを述べていきます。

まず、中学3年生のDさんは学習に対する理解力が非常に高いです。模試の結果でも本人が希望する難関校にS判定を出すなど、ポテンシャルが高くのびのびの学生を毎回驚かせています。数学においてはほぼ助言無しに難しい演習問題に取り組み、例えつまづいても簡単なアドバイスで自分の力で的確に解きます。私が教材準備をすればするほど内容を吸収していて、教材を余すことなくやり切るためとても嬉しく感じています。従って、教材準備の時間が以前よりも楽しく感じ、彼女の学力がもっと伸びるために何ができるのかに重点をおいてワークシートや入試の類似問題などの作成を行っています。次に中学2年生のYさんは、入塾当初初中1の単元である正負の計算はおろか、小学校の分数の計算もできていませんでした。そこで、25マス計算をはじめ、分数

の計算問題、中1の正負の計算を本人が飽きるまで学習したりと計算の基礎を固めるための学習に取り組みました。結果、今では一次式の計算方法を理解し、代入法の計算をほぼアドバイスなしに理解しながら解けるほどになりました。授業としては教材準備をしてもその日の目標まで進むことができず、準備したものが半分ほど余り正直残念に感じてしまうことも多くあります。だが、Yさんは非常に学習意欲があり、多くの課題を確実に一つずつ克服しています。Yさんが取り組む姿勢を見ていて、絶対に数学ができるようになってほしいと誰よりも思います。その日学習したことは、必ず本人に説明してもらうことで理解しているかどうかの確認を行うことを心がけており、Yさんも説明することで本人の自信につながっている印象を受けます。

二人の学習の理解度に大きな差はありますが、どちらも強い学習意欲を持っています。今行っているYさんに理解を表現させる授業方法は、アクティブラーニングの形態にも通じています。ある程度Yさんに数学の力がついてきたら、最近入塾してきたOさんとMさんとのペア学習などを行うことでYさんの理解、表現の力も補っていくことができると思っています。理解力に差があっても、その生徒のニーズに合わせた教材準備や授業作りをして個々に応じた支援を行うことが、教員になるうえでの一つの強みになることを学びました。今後も生徒が楽しく学びやすいと思える環境を作るために一層教材準備、教材研究、生徒とのコミュニケーションに力を入れていきます。

ボランティアと支援

自治行政学科 4年 黒川 昂

私は今年度の10月からのびのび学習塾（以下「のびのび」という）に参加してきました。のびのびが初めての学習ボランティアであり、新しい経験として楽しく活動しています。このボランティアで考えたことは「学習ボランティア」と「支援」についてです。

まず「学習ボランティア」について、学習ボランティアは相互学習であると考えます。私がよく担当している、Kさんは日本に来てまだ数か月のため日本語があまり上手ではありません。しかし、英語はかなりできます。私が英単語を発音すると、「先生、その発音じゃないよ」とよく言ってくれます。ここでの時間は、Kさんに日本語や他の教科を教える時間であると同時に、私の英語の時間でもあるのです。また、教え方についても同じだと考えます。

生徒がある問題で悩んでいる時に、ただ教えるのではなく、図を用いて視覚的に説明することや、生徒の身近なものに例えて説明すると納得してくれます。この教え方は「わかりにくいな」「わかりやすいな」など、生徒の反応を見て勉強することが出来ます。生徒から気付かされることも多くあるのです。このように、どちらかが一方的に教える・教えられるのではなく、相互に学びあうことも学習支援の一つの形だと思っています。話は飛躍しますが、相互支援をしていけば、自然と互いのことを理解し尊重できる世の中になると思います。のびのびは、外国につながる子どもを対象にしていることから、こういった社会に繋げられる環境だと思っています。

次に「支援すること」についてです。支援することは生徒との信頼関係を築いていくことで、そのためには、授業の教材準備が大切だと思います。のびのびは学校に比べ生徒が少ないので、その生徒個人にあった授業展開が必要です。また週に1回、50分といった限られた時間の中で教えなければなりません。だからこそ、教材準備でその授業が決まると思っています。前述のKさんを初めて担当した時は理科でした。授業内容は祖国で学習済みで理解しているものの、日本語がわからないので日本語の問題には苦手意識があります。そこで、日本語の下に英語訳を書いたプリントを作成し渡したところ、「僕のために先生ありがとう」と言ってくれました。そこから生徒の授業に対する意識が少し変わったと思います。もともと勉強に対して意識が低いわけではありませんが、以前より授業時の目つきが変わり、楽しく学習しているように思えます。教材準備をしっかり行うことは、学生がその生徒に対してどれだけ想っているかを示しているし、このことには生徒自身も気付いてくれるものです。だからこそ生徒を想う教材準備は生徒と信頼関係を築き、生徒のモチベーションにも直結すると思っています。私は来年度、労働局に就職します。ここでは職の提供といった就職支援を行います。教員になるわけではありませんが、のびのびでの経験はきっと労働局でも生かされると確信しています。相互に理解し合って、信頼関係を築いていながら、その人にあった職を提供していくことは、のびのびの活動に非常に似ているからです。学習支援と就職支援、「支援」という共通点を意識しながら気張っていこうと思います。

子どもに一番必要な支援

英語英文学科 4年 影山 千恵

のびのび楽習塾でのボランティア活動を始めて2年が経ちました。現在、のびのび楽習塾では外国につながる子どもたちが6名、学習環境に困難を抱える中学1、2年生が9名、合計で15名の子どもがいます。後期の活動が始まってから6名の子どもが増え、教室の雰囲気は以前と比べ、賑やかなように感じています。

私は前期から中学1年生のMさんを担当してきました。Mさんはとても明るい生徒です。しかし、自分のこだわりが強く、一度自分なりに理解したものはたとえ間違っていたとしても、絶対にこうだ、と考えを変えない一面があります。のびのび楽習塾では主に、彼が間違って覚えて知識を正しく直す学習をしています。英語では発音や文法、教科書内容の確認を行ってきました。彼は、2学期の中間テストで英語の点数が伸び、「英語は自分の得点源だ。」とそこからよく口にするようになりました。テストで満足のいく点数がとれ、それが彼の自信につながったことは私に、とってもとても嬉しいことでした。しかし、自信がついたことで基礎的な問題を提示すると、「こんなの簡単だよ。」と笑って言い、100%の自信を持って答えを書くのですが、回答は彼の言葉に反して間違っていることがありました。私が本当にこれでいいかと確認をすると、「ここはこういう規則があるから絶対にこうだ。」と彼なりの解釈を説明してくれます。しかし、その解釈が別の文法とまざっていて、誤っているのです。私は、たとえ間違っていたとしても彼なりの解釈を否定しないで、彼自身が自分の間違いに気付くようにしています。私が出した例文を、彼に説明してもらいました。すると違う文法のはずなのに、同じような説明をしていることに気付き、混乱することがよくあります。さらに例文を提示して、彼の誤った理解を少しずつ訂正していきました。何度も繰り返し確認を行い、彼が正しい説明ができると褒めるようにしました。自分の理解が間違っていたことで少し寂し気な顔をしていたMさんでしたが納得して表情が明るくなるとこちらまで嬉しい気持ちになりました。彼は問題を多く解くことで、テストの点数が上がっているようで、問題を要求してきます。彼を担当するようになったばかりの頃は、問題演習を中心に行ってきました。問題の正答率は非常に

かったのですが、どうしてこの答えになったのか聞くに困った様子になり、説明は苦手だと本人が言うていました。他の教科を学習している様子や、先生の助言から、彼には説明をする力をつけることが必要だと気付きました。説明をする力をつけることで、学習内容の定着もしやすくなり、また、学習面だけでなく、順をおって相手に説明することは、普段の生活の中でもとても大切なスキルです。のびのび楽習塾では基本的に子どもたちのやりたいことを優先して、次回の教科を考えたり、教材準備をしたりしています。しかし、Mさんのように本人のやりたいことが、その子どもにとってあまり必要でないこともあります。生徒のやりたいことを鵜呑みにせず、生徒にとって今やるべきことを考えたり、時には学生同士や先生と相談したりすることが大切なのだと思います。

私は卒業に伴い、今年度でのびのび楽習塾の活動を辞める予定です。Mさんが、これからどのように成長していくのか見ることはできないのはとても残念です。Mさんとの学習をはじめ、のびのび楽習塾で子どもたちから学んだことは大切な糧となりました。あと数か月の活動ですが、子どもたちにできる限りの支援を全力ですると同時に、子どもたちからたくさんのことを学ぶ姿勢で取り組んでいきたいです。



生徒の意欲に沿いながら進める

英語英文学科 4年 滝沢 葉菜

のびのび楽習塾に参加させていただいてからまだ数カ月しか経っていない私ですが、毎週活動に参加する度に、生徒と関われることに喜びを感じています。また、様々な個性を持った生徒と関わることで、きっとこの経験が、学校現場に出た際にも役に立つと確信しています。現在はOさんを担当することが多いため、彼との学習から気付いたことについて書いていきたいと思っています。彼と学習する上で気づいたことは、生徒の意欲に沿って進めることの大切さと、既存の知識を引き出すことの大切さです。

まず、生徒の意欲に沿って進めるということに関してです。Oさんは英語の学習に対して大変意欲的です。英語の本が読めるようになりたいと、一生懸命学習に取り組んでいます。Oさんと話し合い、現在は中学校2年生の教科書を中心に学習を進めています。Oさんの場合は、自分で「2年生の範囲がやりたい」と決めていて、初日から自分のノートと教科書を持ってきていました。学習を進める中で、1年生で習う単語や文法事項が定着していないと感じることはありますが、場合によっては、本人の意思を尊重することも大切だと思います。これはあくまで私個人の考えですが、彼自身のプライドがあるのではないと思うからです。意欲がある彼だからこそ、その意欲を削いでしまうようなことはしたくないのです。彼と学習をしていると、彼の真面目さに本当に感心します。宿題は毎回必ずやってきますし、のびのびの授業中も積極的に取り組んでいます。彼のそのような姿を見ていると、英語が分かるようになりたいという、彼の気持ちに伝えられるような授業をしなければいけないと、こちらの気持ちも引き締まります。

次に、既存の知識を引き出すということに関してです。英語が苦手な生徒と勉強するとなると、「教える」授業になってしまいがちです。しかし、生徒から「引き出す」ことが大切だと、学校ボランティアの活動を始めてから気付くことができました。のびのびの授業でも、なるべく生徒から引き出すように心がけています。生徒から「引き出す」ことによって、生徒自身が自分の理解度を確認することができますし、私自身が生徒にどれ程単語や文法が定着しているのか知ることができます。そして、生徒

から引き出した知識が合っていれば生徒の自信につながります。間違っている、生徒の新たな学びにつながると思います。

のびのび楽習塾で生徒と一対一で関わることによって、一斉指導の学校現場で授業についていけない生徒がいるという現状を身を持って知りました。私がのびのびに参加できる期間はあとわずかですが、そのような生徒の力になれるように、責任を持って取り組んでいきたいと思っています。また、自分が教師になったときに、そのような生徒から目を逸らさずに、寄り添える教師でありたいと思います。

日本語を教えることの難しさ

人間科学科 4年 佐野 史織

私がのびのび楽習塾を始めて1年が経ちました。1年前は毎日が緊張だらけでドキドキしながら活動していました。今となっては、各生徒の学力にあった勉強を行うことができているなど実感しています。

今年の10月から生徒が増え始め、12月現在15名の生徒達と14名の学生、3名の先生方と活動しており、毎回の活動にやりがいを感じています。今回のレポートでは、私がたまに日本語や国語を教えているネパール出身のKさんについて感じたことを述べたいと思います。

Kさんを初めて担当したのは入塾した時でした。出会った当初は、日本語は少し話せるが、あまり会話をしないおとなしい印象だったのを覚えています。しかし、のびのび楽習塾で勉強をしていくうちに、最初の頃よりも明るくなったような気がします。夏休みにはJIN・KANAの生徒と学生、のびのび楽習塾の生徒と学生で行ったキャンプに参加してくれました。帰る際、笑顔で「楽しかった!」と言ってくれたので、普段の活動とは違った思い出が残せてよかったと感じました。

ある日の活動時に、Kさんに「敬語」を教える時がありました。日本人でも理解が難しい敬語を彼女に教えることはできるのかと不安でした。一応その時はプリントに沿って説明をし、身近なものを例に挙げて「こういう時はどんな風に言う?」と工夫をしました。この日は何となく終わった感じで終わりましたが、しかし、ネパールには「敬語」といったようなものが無いので、私の説明ではしっくりこなかったのかもしれない。この時、改めて日本語の教え方について考えなくてはならないと痛感しました。ただ、漢字を読み書きできるようにするのはなく、敬語や簡単な文章を読解することなど様々なことを教える必要があると思いました。最近は生徒

の人数が増え、Kさんの勉強を見る回数は減ってしまいましたが、会話をするたびに日本語を話すのが上手になって、出会った頃より笑顔が増えたと感じます。

私は来年の3月で大学を卒業すると同時に、のびのび楽習塾での活動も終了してしまいます。また、今回ここで述べたKさんも中学校を卒業し、高校へと進学します。

残された活動日数を大切に、Kさんをはじめ、のびのび楽習塾に来る生徒たちにとって「いい居場所」になれるよう努力してまいります。

中学生と触れ合って学んだこと

電気電子情報工学科 4年 木川 駿

私がのびのび楽習塾の活動を始めたのは、平成26年1月のことでした。この活動を始めるにあたって当時の教職員や先輩の方々から聞いた話では、外国につながる子供たちへの学習支援であり優しい日本語を使ってほしいとのことでした。そこで、私は優しい日本語とはどのような日本語なのかを考えました。また、学習に関しては、生徒の学習する内容を確認し、分かりやすいところと分かりにくいところを考え当日に備えました。

当日を迎え、ある日本語を使ったとき、生徒から分からないとの声が上がりました。それは、分かりやすい日本語を使っていたつもりでしたが、自分の思い込みであることに気付かされました。その時、日本人から見た分かりやすい日本語と、外国人から見た分かりやすい日本語は違うことを学びました。そこで考えたことは、どのような日本語が外国人から分かりやすいのか、その分かりやすい日本語を適切に使うにはどうしたら良いのかということでした。そして、考えた結果、生徒のことをよく知る方法としてコミュニケーションをとるということを実践しました。生徒の表情、仕草、話し方などから学習時の気持ちや、考えていることを読み取るようにし、その生徒にとって優しい日本語とは何かを考え使っていくようにしていきました。時々生徒から日本語の意味が分からないとの声上がりますが、今後は、そのような声が上がらないようにしていきたいと思います。また、それがきっかけで学習に対する考えも変わりました。教える側から見た分かりやすい、分かりにくい学習内容と、生徒側から見た分かりやすい、分かりにくい学習内容はそれぞれ違うことを学びました。そこで、今はコミュニケーションを図っていく中で、生徒にとって分かりやすい学習の仕方とは何かを考え進めていくように心がけています。

生徒から学んだことは他にもあります。それは、生徒一人ひとり様々な悩みがあることです。主な悩みは、学習の仕方や部活動、将来の夢などですが、

中には家庭環境の悩み、学校での人間関係の悩みなど複雑なものもありました。その時に私ができることは、自分の経験を話すことではないかと思いました。そこから、生徒が答えを見つけられたら良いのですが、なかなか答えが見つからない場合もありました。そのような時は、少しでも悩みを軽くしてあげられるように、生徒の表情をよく見て、話をきちんと聞き、共感を表す言動を取るようにしました。他にもできることがあるかもしれないのでいろいろ考えていこうと思います。

今後も、生徒との関わりを持っていくと色々なことが起きると思いますが、そんな時は、生徒と一緒に考えてアドバイスをしたいと思います。また、私自身が生徒から学ぶこともとても多いので、常に何が生徒にとって良いかを考え、これからも生徒と一緒に成長していきたいと思います。

初年度ののびのび楽習塾での活動

電気電子情報工学科 4年 御子柴 裕一

私は今年の9月末からのびのび学習塾で活動しております。始めてからまだ2か月と少しほどで至らないところも多く、他ののびのび学習塾で活動している皆さんに少なからぬ迷惑をかけてしまっていますが、助言を受けながら生徒と少しずつ打ち解けてきていると思っております。

この2か月で受け持った生徒は4、5人ほどおりますが、特に受け持つことが多かった生徒はMさんです。私が教える教科は主に数学と理科になります。彼は自分が解らなかつた問題をしっかりとってくれるため、教える側として非常に教えやすい生徒です。Mさんを私が初めて一人で受け持った時は、しっかりと教えていけるか、コミュニケーションをとることができるか不安もありました。しかし、いざ授業に入ってみるととても話しやすく、またこちらの話もしっかりと聞いてくれて楽しく教えていくことができました。今まで行った授業から、Mさんは知識を問う問題や単語をしっかりと覚えていくかを問う問題は比較的良くできているのですが、起こっている事柄についての説明がとても苦手で、できているものほとんど単語だけで説明ができてしまうような簡単なものでした。起こっている現象については理解しているものの、それを人に上手く説明するための文章を作るのが苦手なようです。これについては簡単な説明問題の小テストを作り、解いてもらうことで少しずつ自分が理解していることが採点をしている先生に伝わるようになってくれれば良いと思います。また話をしていく中でMさんはとても電車が好きであることが伝わってきました。なかなか彼の電車の話についていくことはできませんが、打ち解けていくためにも生徒の好きなことに話を合わせていけるようになれるといいなと思っています。

他の生徒との授業もまだまだ不安に思うこともあります。生徒と楽しく関わっていけるように試行錯誤をし、対話をしていきながらのびのび学習塾での活動をより良いものにしていけるよう頑張っていこうと思います。

継続していきたいこと

電気電子情報工学科 4年 佐藤 未菜

のびのび学習塾に参加してからあっという間に1年が経ちました。1年活動して、ようやく教えることに慣れた気がします。前期の振り返りで書いた中2の生徒について、後期は数学を担当することが多かったのもそれについて感じたことを書きたいと思います。

9月の初め頃、のびのび学習塾では連立方程式を行っていました。問題を解いている様子を見ると、連立方程式そのものではなく、途中計算にあるかけ算に苦戦しているように感じました。話を聞いてみたところ、本来小学2年生で習うはずの九九がほとんどできないことがわかりました。また、生徒の数学嫌いもこの頃から始まったようでした。九九は数学で必要不可欠です。少しでも九九を覚えて慣れるためにも、10月頃から100マス計算(25マス計算)を授業の最初に行うことにしました。時間に余裕のある時は100マス計算、生徒が遅刻したりして時間に余裕がない時には25マス計算を行うようにしました。最初の頃は、100問解くのに10分近くかかり、正当率もよくありませんでした。さらに、答えに自信を持って書くことができていませんでした。しかし、数を重ねていくうちに、間違ってしまう問題がほぼ毎回同じであることや、特定の段が苦手なことに気がきました。授業では、間違いが多かった段や苦手な段をホワイトボードに書いたり、正しく言えるまで声に出して覚えたりしてきました。生徒と接するときはこれ以上数学に対するマイナスイメージを持たせないように、できるだけポジティブな言葉をかけるようにしました。正解したときは「やるね!」、「いけてる!」、間違ってしまった時は「できていない」ではなく「惜しい!」と言うように心がけました。また、生徒に自信を持たせるために、答えがわからなくても不安でもまずは自分で考えて答えを出すようにして、生徒より先に答えを言ったり、考えている途中で間違いを指摘しないようにしました。初めは、生徒自身、数学や算数に対する苦手意識が強く、やる気もありませんでした。しかし、何回もやることによって少しずつ解答に自信がついてきているように見えました。100マス計算を始めて約3カ月、12月に行った100マス計算では正答率が97/100と、今までで一番良い結果になりました。まだまだ完璧ではありませんが少しずつ成果は出ています。

このことを通して、ちょっとしたことで毎回継続

していけば必ず成果が出てくることを実感しました。卒業まであと2、3か月、残された回数はわずかですが、少しでも生徒のためになるようにこのようなことを続けていけたらいいと思います。

「言葉の壁」を越えたその先で

経済学科 3年 山梨 優

言葉の壁。それはとても大きく立ちはだかり、いつも私を困らせる問題でした。しかしながら、その壁はこの半年間の活動の中で簡単に崩れていきました。

この半年間、4月にネパールから来たばかりの女子生徒との学習を主にしてきました。この生徒は日々、日本語を自ら学び、少ない語彙の中で必死に自分の気持ちや考えを伝えようとします。この生徒との学習こそが、私の中の「言葉の壁」という概念を変えることになりました。

一緒に学習を始めた頃、私は自分自身の英語力の低さに悩みました。そして、それと同時に言葉の壁の高さを改めて痛感しました。不安を抱えた私は、授業で使用する単語・用語の英語を調べ、それらを生徒に示しながら授業を行いました。すると授業はスムーズに進み、生徒も学習内容をより深く理解してくれました。これで言葉の壁の問題は越えていけるような気がしました。しかし、私は満足できませんでした。なぜなら、授業が楽しくないからです。どんなにわかりやすい授業でも、生徒が楽しいと感じなければ学習効果が出ないと思います。実際、自分自身の英語力を気にするばかり会話が少なくなり、ホワイトボードにすぐ言葉を書いてしまい、生徒自身も日本語に不安があるため会話することを渋り、コミュニケーションの場面が減ってしまいました。これでは授業自体に魅力がなく、私の自己満足でしかないと思いました。そこから私は授業のやり方についてもう一度考え直し、やり方を変えました。具体的には、最低限の英語以外は使わず、ジェスチャーや笑顔で表現し、話すことを重視するようにしました。すると、生徒が笑う機会も増え、より授業の時間が楽しくなり、生徒との信頼関係を築くことができました。私は、言葉が十分に伝わらないことを問題として認識していましたが、一番の問題は言葉が伝わらないことでコミュニケーションをとることを諦めていた自分自身でした。これを機に、生徒が質問や意見を私に伝えるという場面も増え、より充実した学習をすることができています。また、学習の時間以外でも生徒から話しかけてくれることが増えました。

この経験は私にとってとても貴重なものです。私は外国語が苦手です。これは昔も今も変わらないことです。しかしながら、この経験をしたことでは外国の方と話すことすら拒んでいましたが、今は自ら話すこともできるようになりました。問題は言葉ではなく、気持ちだと教えてくれたこの生徒に

はとても感謝しています。そして、夢へ向かい日々学び続けるこの生徒に対して、より良い支援をしていきたいと思います。

成功体験と失敗体験による生徒の学びへの態度 法律学科 3年 遠藤 駿

のびのび楽習塾で生徒と学びの場を共有させてもらって、あっという間に一年が過ぎました。生徒の数は日に日に増えて二つの教室だけでは足りないのではと感じるほどです。後期に入るとさまざまな生徒を担当することになり、新たな一面を見る機会も増えました。

中学2年生の運動部に所属する生徒と、地理の都道府県と県庁所在地についての学習を行いました。彼女は暗記をすることが苦手だと相談してくれました。そこで、日本を地方ごとに区分し、制限時間を設けて短期で集中するやり方を教えその場で取り組んでみました。たしかに、最初は詰まることや地名が出てこないことが多くありました。しかし、なんだか繰り返すうちに彼女は彼女なりの覚え方（後で確認すると、時計回りあるいは反時計回りで覚えていた）を見つけ、正解数を増やしました。都道府県と県庁所在地を一通り覚えた後彼女は一言こう言いました。「都道府県と県庁所在地ならテスト全部いける気がする。」と。そして、テストが返却されたら結果を報告すると約束し、翌週に結果を報告してくれました。結果は都道府県と県庁所在地については宣言通り全問正解でした。たしかに、もともと学校の授業をしっかりと聞いている生徒ではあるが、そのことにおいて彼女は嬉しかったようだ。これは社会という教科において一つの成功体験となりました。

しかし、ほかの科目は自分の頑張りが発揮できなかったそうです。これは失敗体験でした。そこで彼女は今後どうなるのか興味があり、さらに翌週の様子を見てみました。すると、よっぽど悔しかったのかその日は部活よりもののびのび楽習塾を優先したのです。それぐらい悔しかったようです。彼女には、成功体験も失敗体験もどちらも頑張るための経験値として自分に生かすことができました。きっと、彼女のようにどちらの体験であっても自分の力にできる生徒は多くはないでしょう。成功すれば誰だって嬉しいし、次も頑張ろうと思えます。けれども、失敗したらどうでしょうか。私自身中学生のころは悔しいという気持ちもありましたが、どうしても腐ってしまうことが多かったような気がします。先生だけではないが、保護者なども含めた周りの人間が大事になるのはこのようなタイミングなのではないかと思えます。そこで、生徒が失敗体験を原因に腐ってしまうか、奮起させることができるかは先生や保護者のサポートによって変わってくると思うのです。

最後に、あるテレビ番組で記憶力には個人差があまりみられないという話を聞きました。では、何が差を生むのか。それは覚えることへの意欲なのだと思います。私も含め生徒に関わる周りの大人や学生が生徒に学習への意欲を高める環境、働きかけをすることができればそれが生徒にも学生にとっても一番の幸せなのではないかと思います。その幸せのために日々勉強していきたいです。

生徒との信頼関係を創るために

英語英文学科 3年 荒井 千鶴加

私は昨年10月ののびのび楽習塾に入塾した生徒をこれまで1年間担当してきた。入塾当初彼女は学習が苦手な生徒であった。私は日々彼女とどのように接し、学習を進めていくべきなのか。また彼女にとって最善の学習方法はどのようなことであるか、ということを考えてきた。まだ担当して間もないころ彼女のことをあまり知らなかった私は手当たり次第に資料を漁り、問題を作成し、共に学習してきたことを今も覚えている。英語が苦手だと頻繁に口にする彼女にとって私との授業は決して容易なものではなかったと思う。学校の予習や課題を行ったり、テスト勉強をしたり時には1学年前の学習を行った。毎回弱音を吐きながらも一生懸命問題を解き、努力する彼女の姿に「彼女の力になりたい」と思うようになった。それから彼女と学校のこと以外の話題でコミュニケーションをとるように努め、彼女の好きなこと好きなもの、反対に苦手なものを聞き彼女の好きなものは私も調べたり本を購入したりした。それらを通じて彼女と話を進めていき、英語という教科の学習につなげていった。最初は話すことの時間が多くなってしまっていたが、段々自ら話を切り上げ、学習していくようになった。

学年が上がってから自主的に学習をするようになった彼女は自分で参考書を解いたり、入浴時間に学習するようになったり、のびのび楽習塾にも休まず通ってくれている。英語の学習に関しては着実に成長していて毎回行っている単語テストでは、始めた当初ほとんど解けていなかったが、今では間違える問題の方が少なくなっている。彼女の英語に対する意欲が上がったのではないかと考えている。今後彼女がどのように英語という教科を学習していくのかを共に考え、成長していきたいと思う。

私は彼女を担当してから信頼関係を創ることの大変さや対応力の大切さを改めて感じた。長く担当してきたからこそ分かることがあり、分からないこともある。相手に信頼してもらうには自分から信頼していく。その子に合う学習方法を試し、何かあれば臨機応変に対応していく。これは決してこのボランティアという場面において必要なスキルではなく、教員になった時にも必要な能力であると強く感じた。これらの大切さを教えてくれた彼女と今後も学習を共にし、のびのび楽習塾で過ごす時間、彼女のそばで成長を見届けていきたいと思う。

半年を振り返って

経済学科 2年 富澤 悠太

私は今年度の9月より『のびのび楽習塾』でボランティアを始めました。将来教員になりたいという漠然とした目標はあるものの、自分が実際に勉強を教えることに対して明確なイメージが湧かないでいました。そのような時期に始めたのが『のびのび楽習塾』です。当初は『生徒とともに学習する』という行為に対して不安でしたが、担当の先生方や、先輩方に教えていただき、のびのびで活動することに対しての不安は次第になくなっていきました。

ボランティアを始めてまず生徒の個性の豊かさに驚きました。自分から意見を伝えることが得意な生徒もいれば苦手な生徒もいます。生徒には個性があり、個性を理解した上で長所と短所をつかみ、個人

個人に合わせた指導をすることに難しさを感じました。『のびのび楽習塾』ではマンツーマンが基本であり、担当生徒も日によって異なります。初めての生徒に教えることがあるため、短時間で個性をつかむことが大切なスキルであると感じました。しかし、個性をつかむにはどの様にすれば良いのか考えた結果、先輩方は休憩時間に積極的に声をかけコミュニケーションを取っている方が多いに對し、自分はあまり積極的に話すことができていないことが原因であると感じました。生徒と共に学習をするということは、学習を行う以前に生徒との信頼関係が大切であり、信頼関係を築くには日常会話が大切です。従来の自分は積極的に話しかける機会は少なかったが、自分から話しかけることを心がけるようにすると、生徒の反応が以前とは違って良くなっていると感じました。

私が主に担当することが多いある生徒は、自ら積極的にコミュニケーションを取れる反面、集中力が長続きしないという欠点があります。最初は学習を始めるまでに時間がかかっていたが、生徒との信頼関係が築かれていくうちに、すぐに学習へ取り組むようになっていきました。

この事が、私にとって生徒との信頼関係が非常に大切だと感じた一場面です。

9月に始めて3か月が経とうとするが、日々が勉強の連続である。最近では多少の不安もあるものもやりがいを感じています。これからも生徒に質の高い学習をする事ができるように、日々の活動を大切にしていきたいと考えています。

発行日：2017年1月20日

発行場所：神大ユース・サポート・プロジェクト (JYSP)

TEL：045-481-5661 (内線4352)

FAX：045-413-4154

E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

JIN-KANA学習塾 No. 6

目 次

生徒のために	2	自信を持って取り組むこと	6
経済学科4年 畑岡 友樹		自治行政学科 3年 栗原 涼子	
生徒の変化に学ぶこと	3	コミュニケーションがもたらす学習の効果	7
英語英文学科4年 清水 浩平		経済学科3年 山梨 優	
成長に合わせた学習	3	自ら気づき学ぶ	7
英語英文学科4年 影山 千恵		英語英文学科3年 三浦 篤史	
耳を傾ける	4	共に成長できる50分	8
英語英文学科4年 駒崎 達也		英語英文学科3年 吉田 真悠子	
少しずつ確実に	4	数学教師としての目標	8
英語英文学科4年 安藤 あかね		電気電子情報工学科3年 宮田 修斗	
繰り返すこと	5	定期テストまでの学習を考えて	9
電気電子情報工学科4年 岩崎 大樹		機械工学科3年 小林 和貴	
生徒自身で導く学習方法	5	生徒とどのように学ぶか	10
情報システム創成学科4年 渡邊 凌		英語英文学科1年 新居 和真	

生徒のために 経済学科 4年 畑岡 友樹

JIN-KANA学習塾に入り、約1年が経ちました。活動にも慣れてきましたが、まだまだ学べることが多く、刺激的な活動を行えています。JIN-KANA学習塾に参加している学生は、それぞれ生徒に対しての見方や考え方が異なり、それらの意見を交換することで、新たな気づきや学びを得ることができ、私を大きく成長させてくれます。時には、意見が対立してしまうこともあります。それは学生たち全員が生徒のために行動している結果でもあります。そのような意識のもとで活動できているJIN-KANA学習塾は得難い場所であり、そこで活動することができる現状にいつも感謝しています。

私は現在、W.MIさんという生徒を担当しています。彼女は、男性が苦手です。初めて会った時のこちらを警戒するような目や、こちらの動きに対して過敏に反応していたことは今でもよく覚えています。そんな姿を見て、私はこの子の恐怖心や警戒心を少しでもとってあげて、楽にしてあげたいと思いました。今思い返してみれば、大きなお世話や押しつけだったかもしれません。でも、あの時の私はどうしても彼女のために何か行動を起こしたかったのです。当時は、男子学生だけで近寄ると身を固くして警戒してしまい、話もうまくできませんでした。そこで、私とW.MIさんと女子学生の三人で学習に取り組み始めました。女子学生を交えることで警戒心を弱めてもらい、不安にならないように徐々に距離を詰めていこうと考えた結果でした。初めは斜め前の席に座って、少し会話に混ぜてもらおう程度にとどめました。それに慣れたら前の席に座り、会話への参加回数を増やしていきました。その次は、少し距離を開けて横の席に座り、女子学生を交えて私が授業を行いました。最後には横の席に座り、1対1で授業を行いました。焦らずに少しずつ距離を縮めていった結果、最初は警戒していたW.MIさんも少しずつ警戒心を解いてくれ、現在でも1対1の授業を継続して行えています。また、物理的に距離を縮めるとともに、彼女のペースに合わせて会話を続けたことで心の距離も近づいたように感じます。

私は、W.MIさんの数学を主に担当しています。彼女と学習する際は、テンポやペースに気を付けながら行っています。彼女は、学習意欲が高く、数学以外の教科でもその傾向が見られます。自ら疑問に思ったことを進んで質問してきたり、学校や自宅で自習をしたりしているという話もよく聞きます。また、記憶力もあり、何度か繰り返して解いた問題を、しばらく期間を開けてから出題してみても「これやったことある。」と発言し、少しのヒントで問題を解いてしまいます。しかし、そんなW.MIさんには弱点があります。彼女は緊張したり、焦ったりしてしまうと、途端に問題が解けなくなり、授業にも集中できなくなります。彼女が言うには、焦った

り緊張したりすると「ワー」となるそうです。そんなW.MIさんと学習する際には、常に彼女が落ち着いて授業に取り組めるように心がける必要があります。矢継ぎ早に質問をしないことや彼女が思考している際はできるだけ静かにすることに気を使っています。解説を行うときにも、解説のペースが早くないかを、「大丈夫？」と区切りの良いところで聞きながら進めています。また、テストの際にも同様の状態になってしまい、実力を発揮できないという問題もあります。その対策として、問題演習を繰り返し行い、その際に時間を確認しながら進めていくことで、本番で焦りが生まれないような工夫を行っています。

W.MIさんは才能に恵まれていると思います。夏休みに書いた国際平和に関する作文は素晴らしい内容でした。また、読み上げる態度も堂々としたものでした。その文才と胆力に感動したことを覚えています。彼女と話をしていると自然と周りの人が笑顔になります。興味のある分野に関しては、時に人並み以上の記憶力を発揮します。様々な才能を秘めたW.MIさんが、これからどのような道を歩み、どのような大人になるのかが今から楽しみです。そして、そんな彼女の未来が少しでも明るいものになるようにこれからも寄り添い、全力で支えていきます。



生徒の変化に学ぶこと

英語英文学科 4年 清水 浩平

2016年度のJIN-KANA学習塾（以下JIN-KANA）の活動も残り20回を切り、中学3年生の生徒も高校入試を控え、自分の進路に向けて日々学習をしています。今年度は一緒に活動している学生の中心的な役割を担い、自分たちで考えながらより良い活動するために話し合いを重ねてきました。JIN-KANAに通う全ての生徒が自分の望む進路へ進めるようにすることはもちろん、自分の居場所だと思ってもらえるようにすることを大切にここまで活動してきました。

JIN-KANAに通う生徒の一人であるA.Kさんとは、何度も一緒に学習してきました。口数はそれほど多くないのですが、学習の時間や帰るまでの何気ない会話を通して、様々な面を見ることができています。11月には、中学校で評定に関わる大切な試験がありました。テスト前最後のJIN-KANAの日、重要なポイントを絞って作ったプリントを用意して待っていましたが、学習開始の時間になってもA.Kさんは来ませんでした。最終的には欠席の連絡が私のところに届きました。はじめは「こんな大切な日に休んで大丈夫か」と思いましたが、欠席の理由を聞くと、「テスト週間の間、自分で夜遅くまで勉強していたため、JIN-KANAを休む」とのことでした。次にJIN-KANAに来て、本人と話をした時も「今までテスト前に家で夜遅くまで勉強したことなんてなかったけど、今回は初めて頑張って勉強した」と言っていました。学校での授業の受け方や、自宅での学習方法についてもアドバイスをしていた私にとって、その話を聞いたことはとても嬉しいできごとでした。生徒の学ぶ姿勢が変わったことは、これまではなかった大きな変化だったと思います。定期テスト後、入試に向けてどのような学習を進めていくか二人で話をした時にも、「入試の過去問を解きたい」「5教科全て入っているワークを家でもやる」といったことを自分から言ってきたのを見て、入塾当初とは見違える程の成長を感じました。A.Kさんの熱意に応えるために、自分もより良い学習の時間にするためにはどうすれば良いか、考えなければならないと気持ちを新たにすることができました。

生徒の成長を間近に感じられるJIN-KANAの活動は、私にとって大切なものです。生徒の今後の人生に大きく関わる高校入試に向けての学習を通して、学力を伸ばすことはもちろん、何か一つでも生徒が成長できるような活動にすることが私の目標です。そしてそれが残り少なくなったJIN-KANAでの活動で私が取り組むべきことだと思います。また、その目標を目指す中で、自分自身も成長していけたら良いと思います。生徒に寄り添った学習支援を最後まで考え続けながら、生徒と関わっていきます。

成長に合わせた学習

英語英文学科 4年 影山 千恵

私は昨年度の4月からJIN-KANA学習塾の活動に参加させていただいています。JIN-KANA学習塾では中学生の受験に向けた学習のサポートを行っています。ただ勉強を教えるだけでなく、学校や家での様子を聞き、生徒の話し相手になるときもあります。

私は昨年3月からS.Mさんの英語を継続して担当しています。入塾当初のS.Mさんは、大人しく、あまり自分のことを話さない生徒でした。しかし、回を重ねるごとに少しずつ学校や家でのことを話すようになりました。今では、私から最近の様子を聞かなくても、この前こんなことがあったなど、と話してくれたり、以前の大人しい印象は変わりました。

現在S.Mさんとの学習は、中学1年生の範囲の復習をしています。彼女はクリエイティブスクールを志望しています。夏休み明け頃からクリエイティブスクールへの進学を考えていて、S.Mさんの成績表を見ながら、2学期に力を入れることを話し合いました。クリエイティブスクールの入試には学力試験がなく、内申点と入試当日のスピーチで合否が決まります。特に関心・意欲・態度が重視されます。S.Mさんの1学期の成績で、関心・意欲・態度の評価はオールBでした。2学期で、なんとしても関心・意欲・態度を上げたいとS.Mさんと話しました。高校に行きたい、という気持ちが明確になり、夏休み以降のS.Mさんの様子は変わっていききました。学校の授業では、1時間で最低2回手を挙げるようになったり、自ら模試を応募したりするようになりました。彼女の頑張る姿を見て、私も彼女の力になりたい、という気持ちが強くなりました。定期テストが近くなると、テストに向けた学習を行いました。1学期、教科書内容を中心にテスト対策を行い、点数がとても伸びたことがあります。そのため、私は教科書内容の学習が1番大切だと思い込んでしまい、2学期のテスト勉強も1学期とほぼ同じように進めました。しかし、テストの点数は下がってしまいました。答案を見ると、教科書内容でない、並び替えや和文英訳の問題のできが悪く、S.Mさんも落ちこんでいました。S.Mさんは夏休み以降、集中して学校の授業を受けていることを知っていたので、本来なら文法の学習を中心に行うべきだったと反省しています。生徒の成長に合わせて、最良の学習は変わることに気付くことができました。

S.Mさんをはじめ、JIN-KANA学習塾の3年生にはこれから入試が待ち受けています。定期テストのときの反省を忘れず、入試に向けて生徒の今の様子、学力をよく考えて今後の学習計画を立てたり、生徒との学習に励んでいきたいです。

私は卒業に伴い、JIN-KANA学習塾の活動は今年

の3月までしかありません。JIN-KANA学習塾では生徒の成長を間近で見ることができ、私も多くのことを吸収することができました。合格発表の日にS.Mさんの笑顔が見られるように、残り少ない活動期間をS.Mさんの頑張りに負けないぐらい、私も一生懸命取り組んでいきたいです。

耳を傾ける 英語英文学科 4年 駒崎 達也

今年の3月に初めてH.Sさんに会い、今に至るまでともに学習をしてきました。私が彼の英語を担当することになってから、私は彼との学習の中で幾度となく教え方に迷い、自分なりに試行錯誤をしてきました。そしてたくさんの事を学び、この一年間は私にとってかけがえのないものになったと思います。

私がH.Sさんと出会い最初に戸惑いを感じたことは、彼の成績が「1」であったという事です。最初は、どの単元に絞って学習していくべきか、もしくは中学一年生の初めから総復習するべきなのか、4月頃の私は、今後のH.Sさんとの学習計画について悩んでいました。しかし、H.Sさんと学習を進めていくうちに「H.Sさんは音声中心の学習は得意である」ということがわかりました。私が日常会話や学習した文法を使った会話を英語で話しかけても、文脈などから大体の意味を推測して答えていました。それまでの学習は、ただひたすら学校で学習した文法事項を自作のプリントで復習するというものでしたが、それからは学習には音声からのインプットを大事にするようになりました。

H.Sさんが9月のテストに向けて勉強を始めたとき、私たちは「JIN-KANA学習塾での学習では、「聞く・話す」ことを中心に勉強し「読む・書く」ことは宿題にして家で学習しよう」という約束をしました。H.Sさんは教科書に書かれている単語が正しく発音できないことが多く、それによって単語の意味を覚えられず、テストの点数が伸びずにいました。JIN-KANA学習塾では私が単語の発音を示し、練習させ、教科書本文に載っている単語をランダムに使って話をさせました。そして、今まで通り英語で会話することは意識して続けた結果、H.Sさんはそのテストで前回のテストの点数の倍もとることができました。このことから、H.Sさんのように成績が「1」の生徒の多くは、単語の発音を正しく発音することができないことや、英語学習における音読や会話の重要性を学びました。テストの点数が良く、成績も良い結果を期待していましたが、H.Sさんの成績は「1」のままでした。本人曰く、提出物を期限内に出さずにいたことや、出しているも記入が不十分であったことが原因であるといえます。その時、今まで私はH.Sさんにとって良い学習方法はなんだろうか、学力を今まで以上に上げるにはどうすればいいだろうか、という事だけで、H.Sさんの

声に耳を傾けていなかったのではないかと不安に思いました。今までは、H.Sさんに対して、「学校でやらなきゃいけないことある？」と声もかけず、ただ一方通行に接していたかのように感じてしまいました。それから、H.Sさんとの学習では、学校で出されている課題や小テストに対しても学習を行っています。

生徒の事に、より興味を持ち、寄り添って、共に学習していく姿こそがこの1年間で私がJIN-KANA学習塾でH.Sさんと学習していく中で学んだことです。

少しずつ確実に 英語英文学科 4年 安藤 あかね

H.Tさんの英語を定期的に見るようになってから、約2か月が過ぎました。入塾当初からずっと男子学生が指導して学習していたため、私が初めて担当したときは本人も新鮮な様子でした。加えて、H.Tさんは自分の考えをしっかりと持ち、自分の言葉で思っていることを伝えられる、とてもはっきりとした性格であるという印象が残ったのを覚えています。また、問題にきちんと答えることができても、ほめると「いやできないです。」と、自分に自信がない様子だったのも印象的でした。

学校の音読テストのために教科書を読む練習をしたとき、本人は自分が読めるかどうか不安な様子でしたが、教科書を何度も読み重ねるうちにすらすらと読めるようになりました。また、音読のテストは時間制限があったため、ストップウォッチを用いて練習しました。時間を意識して練習していく中で、時間内に本文を読めたときはとてもうれしそうでした。学校のテスト本番では練習した箇所を読むことになり、きちんと読めたと話してくれました。テストが終わってからもH.Tさんにその話をすると、練習したページの冒頭部分を見ないで言うことができていました。

H.Tさんとの学習では単語中心に進めています。以前から英語での自己紹介や教室で使うような英語は使うことができています。それに加えて、本人がきちんと仕組みを理解して使えるように基本的な文法事項を確認しながら進めています。初めはbe動詞の使い分けもあやふやでしたが、今ではほぼ完璧に使うことができています。また、人称代名詞は以前からやっていたこともあり、主格と所有格は文の中できちんと使うことができます。動詞についても、学校で学習したことのあるものについては口頭で言える回数が多くなってきました。playやhaveなど、普段の日常生活で使うような単語は身についてきていると感じています。

2学期期末試験が終わった直後のJIN-KANA学習塾で、「安藤さんごめんなさい。」と言ってしまし

た。問題文をよく読まず、わかっている単語を日本語で書いてしまったことを本人はとても後悔していました。書けなかったことは悔やまれましたが、「問題文はよく読むべきだ」ということを本人が理解することができたので、いい経験になったのではないかと思います。

本人は、以前から学習や進路について、人一倍焦っている様子です。英語の学習に関しては、基本的なことをひとつずつ確実に進めていき、少しずつでも本人の「できる」と思うことを増やしていき、本人の自信につなげられるようにしたいです。

繰り返すこと

電気電子情報工学科 4年 岩崎 大樹

学習を習慣づけることはとても大切なことです。しかし、毎日早起きをしようと思ってもなかなか上手くいかないように、新たな行動を習慣づけるのは容易くないと考えます。A.KさんがJIN-KANA学習塾に初めて来たとき、「学校以外で勉強はしたくない」と言っていました。もちろん宿題もやってきませんでした。それでも、学習内容の定着を図るために自宅学習は必要なので、毎回1問か2問を少しずつ渡していきました。すると、段々と宿題をやってくるようになってきたのです。

JIN-KANA学習塾での学習は、学校で行った学習内容の復習をしています。まず、学校の学習は今どこまで進んでいるかについてA.Kさんと話して、学校の学習進度とA.Kさんの希望を考慮し、次回以降のJIN-KANA学習塾での学習を実施しています。もう少し演習が必要なところや自分でゆっくり考えてみる必要がありそうな部分について1問～2問の宿題を出します。やってきた宿題やJIN-KANA学習塾の演習については、自身の理解を整理するために生徒が解答を説明するようにしています。最初は「説明してみても」、と聞いても全く言葉が出てこず私が途中で言ってしまうと途中で言葉が続けて言うことしかできませんでした。1か月ほど続けていると段々と言葉が出てくるようになり、今では堂々と解答を説明するようになりました。証明問題では根拠をしっかりと伝えるように書く必要があり、途中式をほぼ書かないA.Kさんは苦労するかもしれないと考えていました。しかし、普段から解答を説明するようにしているため、証明問題で詰まることは少ないです。

私はA.Kさんとの勉強を通して繰り返すことの重要性を再認識できました。最初から目標にしていることそのものを練習するのではなく、今の自分にできる所から確実に繰り返すことで最終的に目標に到達すればいいのです。

生徒自身で導く学習方法 情報システム創成学科 4年 渡邊 凌

昨年度の10月より、JIN-KANA学習塾にて活動を行っています。昨年度は途中からの参加ということもあり、生徒の成長を強く感じることはできませんでしたが、今年度初めから生徒と一緒に目標を立てて活動を行ったことにより、生徒の成長を感じると共に私自身の成長及び課題が見えてくるようになりました。

私は、現在H.Sさんの数学を担当しています。普段の学習活動では、その日に取り扱った内容に関して、少々難しい問題を含め解き方を理解している様子でした。しかし、定期テストの結果を見ると「数学的な見方・考え方」に関する問題がほとんど解けていない状態でした。原因としては問題の答え合わせをする際に、私が解法を提示しているのではないかと他の学生より指摘を受けました。

11月に横浜市立南高等学校の公開授業に参加しました。コンセプトはアクティブラーニングを重視したものであり、その中で生徒が自身の考えを発表する際に思考が再構築され、より深い学びを行い内容が定着することを学びました。今までのJIN-KANA学習塾での学習方法は、私がヒントを提示することにより、生徒が自身で考える機会を減らし結果として、学習内容の定着を妨げているのではないかと思います。入試本番を考えた際、学生が隣につきヒントを提示し理解を促すようにすることはできません。よって、問題を見て生徒が1から自力で解けるようになる必要があります。

そこで、問題を答え合わせする際、解答の正誤に関わらず何故そのような考え方に至ったか生徒に訊ねるようにしており、正答であればその考え方を褒め自信に繋げ、誤答であればどの箇所が間違えているのか生徒自身で見つけ正しい考え方を自身で導けるように方針を変更しました。ある日、演習問題の解答中に生徒の手が止まっていたため、ヒントを提示しようとしたところ、自力で解き切りたいという意思を感じることができ、最終的に自力で正答に辿り着くことができました。その時のH.Sさんは達成感に溢れた表情をしていたと思います。この一人のできたという達成感が生徒の自身につながって行き更に学習を意欲付けるのではないかと考えられます。

火曜日の学習は学生と生徒の人数の関係により1人の学生が2人の生徒を同時に担当することがあります。その際に一人の生徒だけが問題を解けていた場合、生徒自身でその考え方をもう一人の生徒に教えるようにしています。これにより教える側の生徒が深い学習ができるとともに生徒同士のコミュニケーションもよくなっていると感じました。

今回は教科の指導方法について触れましたが、

JIN-KANA学習塾では情報共有の大切さや生徒との接し方等、大学の講義では得ることのできないより実践的な経験をすることが出来ます。残りの期間も少なくなってきましたが、生徒と共に更なる成長をしていきたいと思います。

自信を持って取り組むこと 自治行政学科 3年 栗原 涼子

大学1年生の10月から始めたJIN-KANA学習塾での活動も約2年が過ぎました。私は、日々の学習や夏休みに行った宿泊キャンプなどのイベントを通して、生徒たちとかわることで様々なことを学んでいます。JIN-KANA学習塾は主に生徒と学生の一对一で学習を進めています。そのため生徒の成長を近くで感じることが出来ます。私は生徒に寄り添った学習をすることを意識しながら活動をしています。

私は中学3年生のI.Mさんの数学を担当しています。I.Mさんは、勉強に対してとても真面目に取り組んでいる生徒です。自分の苦手をなくすために一生懸命に学習に取り組んでいます。JIN-KANA学習塾の学習の終わりに書くコメントシートにも「～を頑張る」や「～をできるようにしたい」など意欲的なコメントが多く書かれています。そのようなI.Mさんの姿を見ていて、私もI.Mさんの力になりたいと思いながら学習のサポートをしています。

入塾したころのI.Mさんは、慣れない場所に緊張していたのか表情が硬く、あまり自分の話をする生徒ではありませんでした。また、勉強に対して自信がなく、苦手意識を持っていました。I.Mさんと出会ったばかりのころは、どのようにしてコミュニケーションをとるか、どうすれば自信を持って勉強に取り組むことができるかを考えていました。私はI.Mさんの話をしっかり聞き、積極的に話しかけました。勉強に対しても自信を持ってもらうために、「わかった!」、「解けた!」という実感が持てるような学習を心がけました。間違えてしまった問題は解説をして終わらせるのではなく、間違えた問題の類似問題を出してきちんと理解し解けるか確認をしました。そして、正しく答えを出せた時は、自分の力だけで解けたことを褒めました。そうするとI.Mさんは、少し照れたような表情で嬉しそうにしていました。このようなことを繰り返していき、I.Mさんとの距離も縮まり、少しずつ勉強に対して自信がついてきたように思います。

そんな中で嬉しい出来事がありました。I.Mさんが学校の数学のテストで60点以上をとることができたのです。私はそのことを聞きとても嬉しく思いました。I.Mさん自身も笑顔で嬉しそうに話をしていました。また、数学や他の教科の成績も上がりました。このように勉強の成果が目に見えるかたちとなったことは、とても嬉しかったことと思います。

最近のI.Mさんは、勉強に対して自信を持って取り組むことができ、苦手意識もなくなってきています。私自身もこのように成長した姿を近くで見ることができ、嬉しさと喜びを感じています。私は、I.Mさんを通して、自信を持って学習に取り組むことの大切さを学びました。

現在、I.Mさんは高校入試に向けて勉強に取り組んでいます。今後も自信を持って入試に取り組めるようにサポートをしていきたいと思います。また、学習面だけでなく、精神面でも支えていければと思います。生徒の心に寄り添えるようなサポート活動をしていきたいと思います。



コミュニケーションがもたらす学習の効果 経済学科 3年 山梨 優

私はこの後期からJIN-KANA学習塾での活動を始めました。そして、ある女子生徒と関わる中でコミュニケーションの重要性を改めて感じました。

この生徒は、学習への興味や学習しなければならないという危機感はあるものの、実際に学習を始めるとすぐに集中力が切れてしまい、なかなか思うように学習を進めることができませんでした。また、出会って間もないということもあり、なかなか私の言葉を聞いてくれませんでした。そして数回一緒に学習してすぐに学校の定期テストとなりました。結果を聞くと、「いつもと変わらない。どうせできない。」と私に嘆きました。一緒に学習した時間は短期間ではあったものの、私の力が足りなかったせいでと痛感しました。それから何とんでもこの生徒に点数を取らせたいという気持ちが芽生えました。そのためにまず、50分間持たない集中力を少しでも長持ちさせる方法を考えました。具体的には、キリの良いところで休憩をはさむということをしました。次に、授業内外で積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことに専念しました。教科についての話だけでなく、日常の何気ない話なども織り交ぜ、興味を持ってくれるということを重視しました。また、学習を行うときは常に「解けなくても大丈夫」ということを伝えました。すると最初こそは問題を解くごとに少し休憩を欲しがっていましたが、数回たつと「休憩しなくても大丈夫だから、次に進みましょう」と自ら言うようになり、50分間集中して学習ができるようになりました。さらに、私の解説に耳を傾けるようになり、自ら質問をするようにもなりました。私はこの生徒の成長をものすごく感じたとともに、思いが届き同じ目標へ向かい学習を進めることができるようになったことに喜びを感じました。

それから学習は進み、再び定期テストがありました。結果的には前回とあまり変わらない点数でしたが、明らかに変わったこともありました。それは、前回のテストが返却された時は「いつもと変わらない。どうせできない。」と言っていたこの生徒が、「時間がなくて後半が解けなかった。もっと時間があつたら後半も解けてもっと点数が取れたのに。」とテストを持って悔しそうに言っていたことです。勉強することのできない諦めかけていたこの生徒が、解けなかったことを悔しそうにしていた時の姿は、私の目にはっきりと焼きついています。

この経験を通して様々なことを学びました。その中でも特に大きな学びは、コミュニケーションを重ね信頼関係を築くことこそが、学習の効果を上げる最大の武器になるということです。この経験を糧に、今後も信頼関係を築くことを意識しながら活動していきたいです。

自ら気づき学ぶ 英語英文学科 3年 三浦 篤史

私は今年度のJIN-KANA学習塾の活動では、授業や他のボランティアとの関係から週1回だけしか、生徒と共に学習ができていません。しかし、その週1回の学習においても、様々な気づきがあり、私自身も成長するきっかけとなる事が多々ありました。

私はA.Mさんと週に一回学習をしています。A.Mさんは体調不良などによる欠席が続き、学校での学習ができていない事がありました。A.Mさんは教科書の内容はほぼ丸暗記していたり、JIN-KANA学習塾の最後に記入するコメントシートには英語で文章を書くなど、英語に対する学習意欲はとても高い生徒です。しかし、初見の文などを学習する際には、単語をただ羅列するだけで意味を取れていない事がありました。またコメントシートで英作文をする際にも、主語・動詞・目的語の語順で書くことができず、主語の無い文や動詞の無い文を書くこともありました。そのため、JIN-KANA学習塾での学習では、日本語と英語との語順の違いから学習をはじめました。英語を書くことに対して嫌だと感じないA.Mさんだからこそできた学習方法でした。様々な文を書き、比較し、共通点・相違点を気づかせることを意識しながら学習を進めていきました。次第にA.Mさんから学習中に「この順番になりますよね?」や「〇〇が〇〇だからこうなる!」と自ら主語・動詞の順番や、三人称単数現在形のsなどの文法事項も理解していきました。このような学習を繰り返していく中、コメントシートに記入する英語も英語らしい語順になっていくようになり、A.Mさん自身も自信を持って英語で記入するようになりました。学習をする際に与えられた説明を覚えることは大きい負荷がかかり、記憶にも残りにくいですが、自分で気がついた・発見した事は記憶に残りやすい、ということを変更して学ぶことができました。

この先控えている高校入試では、初見のある程度の文量を読むことが求められます。そのため、文の形に意識を向けていた学習から、形を基本とした文の意味に意識を向ける学習に切り替えていく予定です。その学習方法でも生徒自身がポイントに気づくような学習方法を意識して行っていけるようにしたいと考えています。この先も気づきを促す学習で、生徒自ら気づき学び、入試を乗り越えられるように精一杯協力したいです。

共に成長できる50分 英語英文学科 3年 吉田 真悠子

私は、JIN-KANA学習塾で生徒W.MAさんを担当している。彼女と出会ったのは昨年の3月だ。その時、学校での様子を聞くと「寝るか、友達と話すかしている」と話していた。「英語は嫌い。」とはっきりと言われたことを今でも覚えている。英語のテストはいつも一桁の点数で、提出物は1年生の時から一度も提出したことがない状況、成績は1だった。私は、何度も「提出物がある時は一緒にやるから持ってきてね。」と伝えた。始めは、提出物の存在を教えてくださいどころか教科書すら持ってきてくれなかったが、徐々に学校の授業進度を教えてくださいになった。

W.MAさんは、JIN-KANA学習塾を始めた時から単語の宿題を出すと欠かさずにやってきた。そして、単語テストでは、満点を取った。私は、毎回褒めることを意識した。「認める」ということが必要だと思ったからだ。学校の授業中は寝ているという彼女だが、JIN-KANA学習塾で寝たことはない。週に2回の50分という限られた時間ではあるが、彼女の英語嫌いが少しでも好きに近づくように、そして自信が持てるようにしたいという一心で一緒に頑張ってきた。提出物の提出を出せるようになり、テストでは47点を取った。また、評定2の目標も達成できた。「3年目で初めての提出。」と言って見せてくれたノートとワークには「Very good」という文字が書かれていた。涙が出るほど嬉しかった。

提出物に関しては、口うるさく言っていたため「こわい」と言われた。私自身自分がしていることに自信はないし、何よりW.MAさんに嫌われるのではないかと考えると不安だった。しかし、彼女は努力し、私と立てた目標を達成した。「英語なんてきらい、家ではやらない。」とはっきりと言っていた彼女が家でも頑張ったのだと思うと自分のことよりも嬉しかった。JIN-KANA学習塾に新しい生徒が入ってきた時に自己紹介で、W.MAさんは「好きな教科は英語です。」と言っていた。半分冗談交じりではあったが、「英語が好き」と口にしたのを聞き、私がやってきたことは間違えではなかったと確信するとともに、英語を好きと言えるまで努力した彼女を褒めようと思った。

W.MAさんとの学習を通じ、根気強く生徒に向き合うことの大切さを学び、生徒一人ひとりに合った対応ができるようになった。私自身成長を感じている。初めてのノートとワーク提出をしてからW.MAさんは毎回欠かさず提出物を出している。この習慣を今後も継続してほしい。

数学教師としての目標 電気電子情報工学科 3年 宮田 修斗

「子供が好き」それが僕の教師になりたいと思ったきっかけです。数学が好きで、人と話をすることが好きです。そのため、高校生の頃に自分に向いているのは教師ではないかと思っていました。けれども、その時はまだ先のことだと思い、深く考えていませんでした。大学に入学して、少し自分に余裕ができて進路のことを考えたときに、自分がなりたい職業は教師だと思いました。しかし、友達に数学を教えることはあったけれど、生徒に教えることができるのか、自分は本当に教師に向いているのか不安でした。そこで、実際に生徒と関わり勉強を教えることのできるJIN-KANA学習塾に参加しました。

JIN-KANA学習塾を始めて、一番衝撃を受けたことは、生活困窮家庭の様々な問題を抱えている生徒が対象なので、生徒への配慮で「生徒の前では保護者の方をお母さんお父さんと呼んではいけない」ということです。確かに、ニュースなどで問題になっていること知ってはいたけれど、実際に家庭の問題を抱えている生徒をみることは正直想像していませんでした。それだけに学ぶことが多く、JIN-KANA学習塾での活動は教員を志望する自分にとってこれ以上ない貴重な経験だと思っています。

昨年の3月から、K.Tさんという生徒を担当しています。K.Tさんは数学が苦手嫌いでした。中学1年の内容からつまづいており、学校の授業についていけない状況でした。そこで、3月から2ヶ月間かけて計算の練習を行いました。その結果、今では公立高校入試の大問1の計算問題を僕と同じスピードで1問も間違えることなく解くことができるほどに計算力が付きました。また、普段から答えが正しかった時にも口癖のように「どうしてこうなったの?」と確認して、生徒自身が説明することを意識しながら学習を進めてきました。初めはうまく説明できずに首をかしげていたのが、最近は「～だから」と不安そうにはあるけれど、きちんと内容を理解したうえでわかりやすく相手に伝えられる説明をすることができるようになりました。これは、K.Tさんの数学力がついてきたのと同時に、数学が苦手という意識がなくなってきた証拠だと思います。これからのK.Tさんの成長が楽しみです。

JIN-KANA学習塾を始めて1年が経ち、何人もの生徒を担当しました。その中で、自分の数学教師としての目標が決まりました。それは「数学の苦手な生徒に数学を好きになってもらうこと」です。これは、昨年度ある生徒に言われた「数学は大嫌いだけど宮田さんに教われれば俺も数学が出来るようになるかもしれない」という言葉がきっかけです。僕は、この言葉は一生忘れません。今後も、1人でも多くの生徒に数学を好きになってもらえるよう頑張ります。

定期テストまでの学習を考えて

機械工学科 3年 小林 和貴

私はJIN-KANA学習塾に参加して、H.Tさんの勉強を見えています。それなので、H.Tさんの多くの成長点を見ることができました。また、その逆で多くの私自身の課題や上手く学習を進めることができないもどかしさを感じる期間でもありました。

先日、3年生の受験用の最終成績ができました。夏休みのときから「中学校で出された宿題は提出しよう」という目標で学習を進めてきていたこともあってか評価が上がっている項目もありました。一応は数学の学習の時間となっていました。理科、国語、社会と様々な教科の宿題を進めました。正直に言えば、すべてが期限までに提出できたわけではなく、むしろ、期限を過ぎて提出することのほうが多かった。それでも、提出をしてよい評価をもらえた時は、それを持ってきて、少し照れながら、それでも「やばくない!」と少し自慢げに見せていました。しかし、宿題の内容が必ずしも簡単なものばかりだったわけではありません。進めていても、特に数学や理科は本人がわかることが少なく、途中で嫌になってしまうことが多々ありました。確かに、できる部分は考えてもらうこともありましたが、それでも、本人の学習というより私が説明したものをただただ写す作業になってしまうことのほうが多かった。評価の関心・意欲・態度は上がったのですが、こういった点で本人の関心や意欲をあげられなかったのは私の課題のように思います。

成績の評価が上がりにくかった原因の一つとして考えられるのはテストに向けての学習をしっかりと進められなかったことにあると思います。本人は今の成績ではいけないと思い、テストで30点は取りたいと目標を立てていました。しかし、先ほど述べたように、宿題をメインに取り組み、その内容は基礎を理解していないH.Tさんにとっては難しい内容でした。また、基礎的な内容の理解として、1年生の最初のほうの内容の復習をしますが、「こんな基礎をやっている学校でテストの点はあがらないのではないか」という本人のじれったさがありました。テスト範囲の内容を理解するために必要なことだということは伝えていました。今思えば、私はそれが必要なことだと理解できていました。しかし、本人にしてみればどんなふうにも内容がつかがっているのか理解するのは難しく、例えば必要なことがわかっていても、宿題や学校の授業がすぐにできるわけではありません。また、進めていくうえで私自身も焦ってしまい、説明が難しくなってしまうこともありました。生徒との目標の共有と説明不足、また、私自身の力のなさを強く感じさせられました。

また、全体を通して、H.Tさんとは仲良くはなれているとは思いますが、ですが、その分、メリハリがなくなってしまうことが多くあります。ただ、学習

だけをすればいいのかといえば、学校生活、受験に向けて様々な話を聴くことも大切だと思います。しかし、限られた時間しかない中で、勉強も進めていかななくてはなりません。時には、全く関係ない内容になってしまったり、だれてしまったりします。私自身が強く言えないところが大きな原因の一つです。もう一つの原因として、学習を進めていくうえで私がよくしてしまう「お願い」があげられます。

「この宿題をやってください。お願いします」「もう少しだから、集中してください。お願いします」。また、H.Tさんは「任せた」と投げやりになってしまうことがあります。いくら勉強が苦手であっても、嫌いであっても、勉強をするかどうかは自分自身のことであり、こちらが決めてお願いしたことをただ進めるだけでは、どこか他人ごとになってしまうような気がします。本人が勉強をしたいと思えば、これほど良いことはありませんが、少なくとも、納得して学習に取り組めるように私がサポートしていきたいです。

定期テストも終わり、受験勉強を始めています。本人が納得できるように話しながらすすめ、一緒に受験に挑んでいきたいです。



生徒とどのように学ぶか 英語英文学科 1年 新居 和真

私は2016年10月から、JIN-KANA学習塾(以下JIN-KANA)で活動しています。いずれ人に勉強を教える仕事に就きたいと考えているので、どのように生徒と学習するとわかりやすいのかを学ぶためにこのJIN-KANAに入りました。私はここで生徒と勉強する中で、生徒の成長を見ることができました。

私が担当しているA.Kさんは英語がとても苦手で、英単語が書けないということを言っていました。学校で使っている教科書を音読をし、生徒が自分で英文を訳すという学習方法で、わかる単語から確認してわからない単語は巻末で引くことによって英文を訳しています。そして、そこに出てきた英単語でテストに出やすい単語や、A.Kさんが単語の意味を忘れていたものをピックアップして一覧にし、単語練習と、テストをする機会を設けています。一度やったものを忘れてしまっていることが多いため再度復習することもあります。今ではまだ語数がそれほど多くないのですが、以前より書けるようになりました。

A.Kさんは語順をあまり理解できていませんでした。そのため日本語は文章において主語が最初に来て動詞が最後に来るという語順であり、それに対して英語は主語の次に動詞が来るという語順を確認しました。教科書の文章を扱う中でどれが主語と動詞であるのかをまず聞いて、そこから訳していくという方法をとっているため、今では誰が何をしたのかわかるようになり、スムーズに英文が読めるようになりました。

一番A.Kさんの成長を感じた部分は、家で勉強することができないと言っていた彼が、学校の宿題を自分で終わらせたことです。それ以前はワークもノートも評価がCであったのに対して、今回は両方ともAでした。ノートの評価がAというのは観点別評価の関心・意欲・態度に関係すると同時に、その評価が得られることはA.Kさん自身嬉しいことであり、常にAをとるためにノートづくりを終わらせよ

うと意識することが勉強につながると思っています。

まだ私は、どのような英語学習が生徒の成長につながるのかわかりません。しかし、生徒とともに学校の勉強の予習復習をし、提出物などで生徒と達成感を共有しながら見つけていこうと思っています。



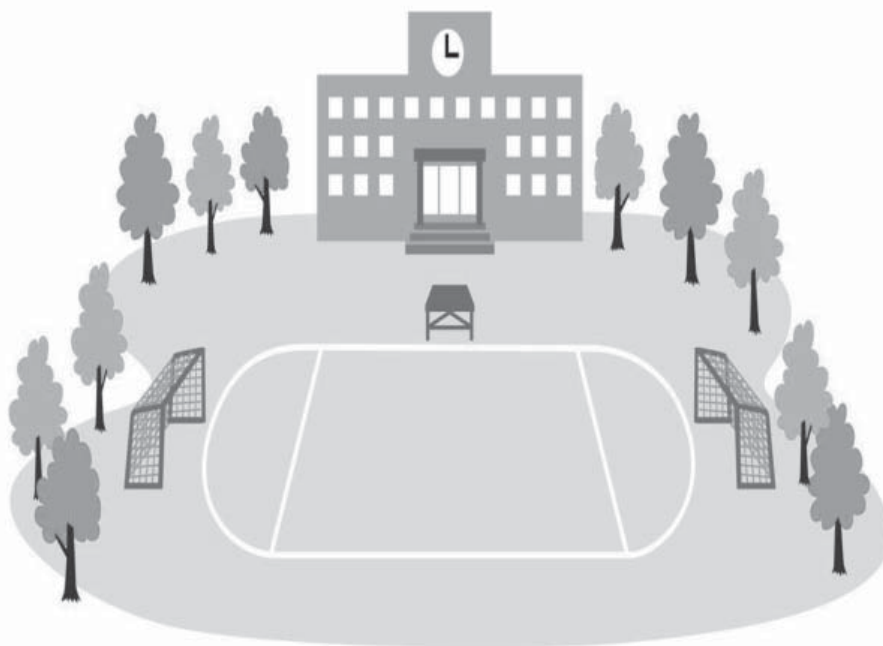
発行日：2017年1月20日

発行場所：神大ユース・サポート・プロジェクト (JYSP)

TEL：045-481-5661 (内線4352)

FAX：045-413-4154

E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp



発行 神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL: 045-481-5661(内線4352)

FAX: 045-413-4154

E-mail: jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL: http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp/